

こども園における感染症の登園基準一覧表

こども園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。

登園に際しては、以下の配慮をお願いいたします。

- ① 園内での感染症の集団発症や流行につながらないこと
- ② 子どもの健康（身体）状態がこども園での集団生活に適応できる状態に回復していること

○ 子どもの感染性疾患一覧表 （保育所における感染症対策ガイドライン）

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹 （はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過するまで
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
新型コロナウイルス感染症	発症2日前～発症後5日間が感染リスクが高い	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後、1日を経過するまで
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失するまで
水痘 （水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮（かさぶた）形成まで	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化してから
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
結核	—	医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱 （プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消えた後、2日経過するまで
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること又は5日間の適正な抗菌薬による治療を終了するまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過するまで

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157、O26、 O111等)	—	医師において感染のおそれがないと 認められていること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する 前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が 発症した数日間	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、 口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普 段の食事がとれること
伝染性紅斑 (りんご病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、 アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後 1週間(量は減少していくが 数週間ウイルスを排泄して いるので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段 の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に 数週から数か月間ウイルス を排泄しているので注意が 必要)	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、 口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普 段の食事ができること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良 いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化 していること
突発性発しん	—	解熱し、機嫌が良く、全身状態が良 いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	効果的治療開始後24時間ま で	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が 覆える程度のものであること
伝染性軟属腫 (水いぼ)	—	掻きこわし傷から、滲出液が出てい るときは被覆すること
アタマジラミ症	産卵から最初の若虫が孵化 するまでの期間は10日から 14日である	駆除を開始していること

※感染しやすい期間を明確にできない感染症については(―)としている